



相場下落時こそ考えたい「積立投資」

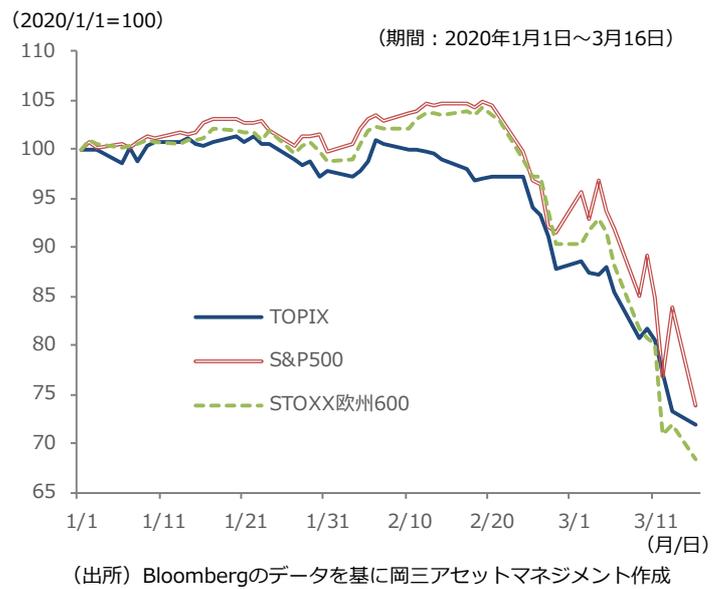
世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、金融市場は不安定な動きが続いています。このような局面では投資タイミングの判断が難しく、加えて投資するのに勇気がいると思います。ただ、「積立投資」は機械的に投資するため、タイミングを考える必要はありません。今回は、過去の下落局面でのシミュレーションを用いて、積立投資の効果について見ていきます。

株価下落局面での積立投資

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に対する不安の高まりや原油価格の急落を受けて、金融市場はリスクオフの動きが強まっています。日米欧株式市場は直近の高値から30%程度下落するなど、値動きの荒い展開が続いています（図表1）。

このような局面では、いつ投資したら良いか、タイミングの判断が難しいと思いますが、「積立投資」であれば定期的に一定額を機械的に投資するので、タイミングを考える必要はありません。積立投資には、値動きが大きい局面でも着実に資産を積み上げていくことができ、結果として価格が安い時に多くの数量を買い、高い時に少ない数量に抑えるのでトータルでの取得単価が下がるというメリットがあります。

図表1 主要株価指数の推移



積立シミュレーション

図表2～4では過去の大きな下落局面における積立投資の例を示しています。

図表2は2000年ITバブル崩壊から5年間、TOPIX（配当込み）に連動する投資信託に毎月1万円積立投資を行った場合のシミュレーションです。当期間において、株価は最大50%以上下落することもありました。株価の下落とともにリターンはマイナス幅を拡大させましたが、株価が反転するとリターンはプラスに転換していきました。この5年間では株価は下落前の水準まで戻りませんでした。リターンはプラスとなっています。これは、下落局面でも着実に積み立てを行い、平均取得単価を下げた効果だと言えます。

図表2 積立シミュレーション①



<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



図表3は2008年リーマン・ショックから同じ条件で積立投資を行った場合のシミュレーションです。ITバブル崩壊時と同様、株価は大幅に下落しましたが、長期積立したことでリターンはプラスになっています。

少額の追加投資によるインパクトは小さい

では、積立投資に加え、さらに株価が下落した局面で追加投資を行えば、パフォーマンスにどれほど影響があるのでしょうか。

図表4は前述の積立シミュレーション①に加え、株価が10%下落した月には1万円追加投資した場合のシミュレーションです。累計積立額は5万円の差があるのに対し、リターンは5.5万円ほどの差しかなく、パフォーマンスに大きな違いのない結果となりました。

投資タイミングが難しい一括投資

投資には「積立投資」の他に、「一括投資」という方法があります。一括投資では、買うタイミングによってリターンが大きく左右されます。よって買い時の見極めが非常に肝心です。まだ値上がりすると考えて買ったその後下落し結果的に高値掴みになったり、まだ値下がりするかもと躊躇してチャンスを逃したりすることはよくあるようです。また、今回のような急落局面では慌てて狼狽売りしてしまったりと、売り時の判断も難しくなります。

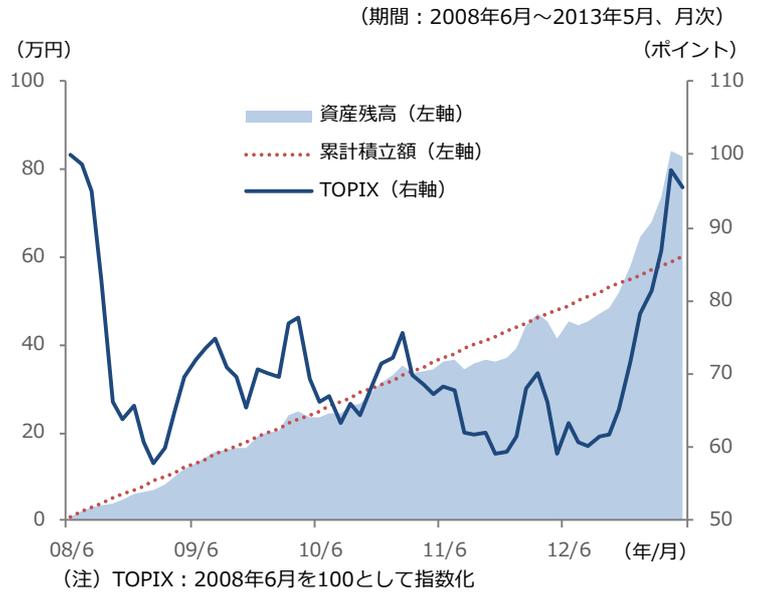
長期的な目線で積立投資を

積立投資は、購入する際に投資判断をしないため、運用成績が欲や恐怖心に左右されることはありません。上昇相場でも下落相場でも淡々と定期定額購入をする積立投資は、初心者にとっても継続しやすい投資方法と言えます。また、つみたてNISAやiDeCoなど個人の資産形成を促す環境は整ってきています。長期的な目線で積立投資を始める好機と捉えてみてはいかがでしょうか。

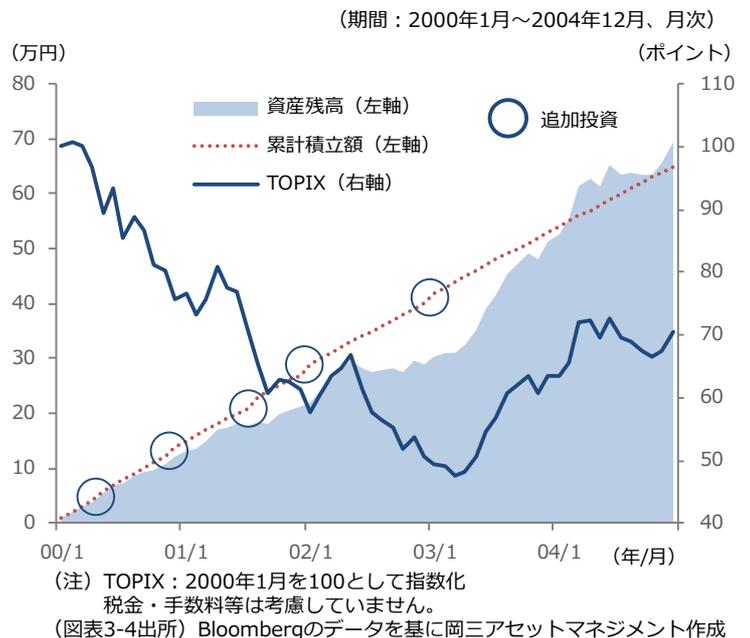
＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

図表3 積立シミュレーション②



図表4 積立シミュレーション③



以上（作成：投資情報部）



皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.85%（税抜3.5%）
 - お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内
 - お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
：純資産総額×実質上限年率2.09%（税抜1.90%）
※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料**
- **監査費用**：純資産総額×上限年率0.0132%（税抜0.012%）
※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。
（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
 - お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社
事 業 内 容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
加 入 協 会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）